

1. 定時社員総会

平成 28 年 8 月 6 日(土)東京大学 弥生講堂。

主な議案は

平成 27 年度 公益社団法人日本動物学会事業報告

平成 27 年度 社団法人日本動物学会決算報告（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

2. 学術集会の開催

平成 28 年 11 月 14 日から 19 日まで、第 22 回国際動物学会議及び第 87 回日本動物学会大会を沖縄科学技術大学院大学、沖縄コンベンションセンター、沖縄タイムスビルで開催。大会準備委員会を組織して、講演、シンポジウム、高校生発表等を行った。高校生ポスター 34 演題、シンポジウム 73 演題（本部企画を含め 14 企画）、関連集会 17 演題（3 企画）、公開講演会 5 演題。大会参加者 831 名（公益 1）

3. 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS)の刊行（第 33 巻 4 号～第 34 巻 3 号）。800 頁。（公益 1）

ZS の編集は、編集委員会委員（海外委員 2 名を含む）が行った。編集委員会は年 1 回開催（公益 1）

Open Access ジャーナル Zoological Letters を出版した。OA ジャーナルのため、巻号はない。平成 28 年度の出版論文数は 30 論文（公益 1）

4. Web による広報活動の促進とニュースの発行

HP を利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

5. データベース構築(ZooDiversity Web)

新たに ZS に出版された論文編が対象とする動物種を調査した。

併せて ZS 32 巻収録論文について、以下を行った。（公益 1）

学名表記を欠く場合について、適切な学名を補完

タイトルについて、不適切な学名表記を修正

研究対象について、学名に対応する英名の調査

研究対象について、所属する上位分類群名の調査

Zoological Letters で発表された論文 30 論文についても動物種の調査を開始した

6. 研究の表彰

・日本動物学会賞

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。本年は 1 件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

中村正久（なかむら まさひさ）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

受賞研究「両生類の生殖腺分化に関する研究」

・日本動物学会奨励賞

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。本年は 3 件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

木矢剛知（きや たけとし）

金沢大学理工研究域自然システム学系生物学コース・准教授

受賞研究「神経活動依存的な遺伝子発現を利用した昆虫の生得的行動の神経基盤の解明」

佐藤 淳（さとう じゅん）

福山大学生命工学部生物工学科・准教授

受賞研究「哺乳類の分子系統および日本産哺乳類の起源の解明」

二階堂雅人（にかいどう まさと）

東京工業大学大学院生命理工学研究科生体システム専攻・准教授

受賞研究「脊椎動物の多様性獲得に関わる分子メカニズム解明」

・ Zoological Science Award

【選考経過報告】

平成 28 年 5 月 15 日に Zoological Science の Associate Editors 全員に、5 月 21 日に Advisory Board Members 全員に、それぞれ候補論文の推薦（平成 27 年中の発表論文のうち 3 編程度まで、推薦〆切平成 28 年 5 月 27 日）を e-mail で依頼した。5 月 27 日までに Editor-in-Chief 1 名、Associate Editors 12 名、Advisory Board Members 4 名より計 31 件、重複を除き計 22 編の論文が推薦された。この推薦論文リストに基づき Editor-in-Chief 1 名と Associate Editors 14 名で、複数の推薦を受けたもの、科学的内容の妥当性と重要性、動物学への顕著な貢献などに基づいて審議をおこなった結果、以下の 6 編を授賞候補論文として理事会に報告するものである。

【受賞論文】

Phylogeography of Semiterrestrial Isopod, *Tylos granuliferus*, on East Asian Coasts Miyuki Niikura, Masanao Honda and Kensuke Yahata Zoological Science 32(1): 105-113

本研究は、海岸の砂浜や礫帯に生息するハマダンゴムシを対象に、分布域を網羅する全 58

地域集団（北海道、本州、四国、九州、南西諸島、朝鮮半島）から多数のサンプルを採取し、遺伝構造解析を実施したものである。ミトコンドリア DNA COI 領域における 115 ハプロタイプを検出し、遺伝的に分化した 4 つの遺伝系統群を明確に示すと共に、遺伝分化の年代推定や各ハプロタイプが検出された地域集団を詳細に分析し、日本列島・琉球列島の形成史（地誌）や海流による影響を考察している。移動能力の低い沿岸棲種に焦点を当てたことで、地誌や海流が起因した生物多様化に関する高精度の考察を成し得ている。

Chironomid Midges (Diptera, Chironomidae) Show Extremely Small Genome Sizes Richard Cornette, Oleg Gusev, Yuichi Nakahara, Sachiko Shimura, Takahiro Kikawada and Takashi Okuda *Zoological Science* 32(3): 248-254

ユスリカ科（昆虫類、双翅目）は、低酸素、低温、乾燥などの様々な厳しい環境に適応した種を含む動物グループである。本論文は、フローサイトメトリー法を用いて、ユスリカ科の 5 亜科 25 種のゲノムサイズを新たに計測し、これまで知られていたユスリカ科 3 種及び、ショウジョウバエを含むその他の双翅目昆虫のゲノムサイズと比較し、ユスリカ科の昆虫が一様に小さなゲノムを持つことを示した論文である。著者らは、ユスリカ科昆虫の小さなゲノムはそれぞれの厳しい環境への適応に関連づけられがちであるが、その小さなゲノムはユスリカ科全体の祖先形質である可能性を指摘している。本論文は、環境への適応とゲノム進化の関係をユスリカ科昆虫をモデルとして究明するための研究基盤の構築に貢献しており、今後、比較ゲノムを足掛かりとした研究発展が期待される。

Molecular Cloning of cDNA Encoding an Aquaglyceroporin, AQP-h9, in the Japanese Tree Frog, *Hyla japonica*: Possible Roles of AQP-h9 in Freeze Tolerance Atsushi Hirota, Yu Takiya, Joe Sakamoto, Nobuyoshi Shiojiri, Masakazu Suzuki, Shigeyasu Tanaka and Reiko Okada *Zoological Science* 32(3): 296-306

多くの無尾両生類が耐凍性を獲得することで低温環境に適応している。本論文において筆者らは凍結保護物質としてグリセロールに注目し、その膜輸送タンパク質であるアクアグリセロポリン（AQP-h9）の解析をニホンアマガエルで行った。注目すべきは、冬眠や軽度の凍結処理により、肝臓の洞様毛細血管に赤血球の凝集が起こり、赤血球に AQP-h9 が強発現するようになることである。AQP-h9 の強発現は凍結処理個体の骨格筋細胞でも見られた。このような現象は活動状態ならびに凍結処理から回復途中にある個体では見られず、耐凍性のメカニズム解明に向けての重要な研究成果となった。

Effects of Visual Cues of a Moving Model Predator on Body Patterns in Cuttlefish *Sepia pharaonis* Kohei Okamoto, Akira Mori and Yuzuru Ikeda *Zoological Science* 32(4): 336-344

頭足類は体色や模様を劇的に変える能力をもち、また高度に発達した神経系および視覚系を有することで知られる。本論文はトラフコウイカに大型捕食魚の模型を視覚的に提示しながら異なる空間軌跡で接近させ、体色や紋様がどのように変化するかを解析したもので、無脊椎動物の視覚認知や、保護色や警戒色の可塑性や適応基盤に興味深い洞察を与える研究成果である。

Fine Structure of the Integumentary Cuticles and Alimentary Tissues of Pycnophyid Kinorhynchs *Pycnophyes oshoroensis* and *Kinorhynchus yushini* (Kinorhyncha, Homalorhagida) Euichi Hirose and Hiroshi Yamasaki *Zoological Science* 32(4): 389-395

トゲカワムシ類（動吻動物門）は様々な海底の基質のすきまにすむ体長 1mm 以下のメイオベントスであり、「泡立て法」によって効率的に採集できることが長らく知られていた。この採集法は基質を海水ごと激しく攪拌した際に生じる微小な気泡の表面に動物が捕らえられるという性質を利用しているが、自然状態で体表が疎水的であることはこれらの動物の生存に極めて不利なはずである。しかし、「矛盾」とも言えるこの性質については長い間検証されてこなかった。著者らは 2 種のトゲカワムシにおける微細形態の透過型電子顕微鏡観察により、体表のクチクラ層の外側には更に粘膜の層があり、これが体表の親水性をもたらしている可能性を見出すことで、この「矛盾」の解決に大きく近づいた。著者らはこのほか、接餌・消化吸収に関する組織・器官や精子鞭毛の形態といった基礎情報も提供しており、知見の乏しいこの類における動物学的寄与は大きいと考えられる。

Sexual Dimorphisms of Appendicular Musculoskeletal Morphology Related to Social Display in Cuban Anolis Lizards Wataru Anzai, Antonio Cádiz and Hideki Endo *Zoological Science* 32(5): 438-446

アノールトカゲ類はディスプレイの様式や行動に関連し、地上性の種と樹上性の種の間で形態の相違が認められる。本研究ではこのような相違が雌雄間にも見られるかどうかを確かめるため、キューバに生息する三種のアノールを用いて四肢の筋肉骨格系の形態学的解析を行い、四肢の筋肉のいくつかにおいて雌雄間の相違（性的二形）を見いだしている。それらを雌雄の行動の違いと関連させて考察した、極めて独創的な論文である。

・日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞

安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性研究者に対して、OM 賞選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。（公益 1）

太田 茜（おおた あかね）

甲南大学大学院自然科学研究科生物科学専攻 学振 RPD、非常勤講師
受賞研究「線虫の温度適応の制御機構」

高浪景子（たかなみけいこ）

岡山大学大学院自然科学研究科牛窓臨海実験所 学振 RPD
受賞研究「痒みの進化とその生物学的意義の解明」

・成茂動物科学賞基金奨励賞

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。学会賞等選考委員会の審議により、推薦があり、推薦通り、理事会の審議により以下のように決定した。

越川滋行（こしかわ しげゆき）京都大学白眉センター・特定助教
受賞研究 「ミズタマシヨウジヨウバエの模様形成機構と進化」・若手研究者国際会議出席

・補助金（江上基金・川口基金）

平成 28 年 4 月から 9 月（江上基金対象）および平成 28 年 10 月から 3 月（川口基金対象）に開催される海外国際会議に出席する若手研究者を対象に、渡航費を補助する。学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

川口基金

今期は、国際大会学生支援のために支出。123 名の学生会員参加費支援

江上基金

藤本 心太（京都大学大学院・博士課程 3 年）

小巻 翔平（広島大学グローバルキャリアデザインセンター・研究員）

・動物学教育賞

活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体とし、本学会の会員・非会員を問わない。国籍も問わない。理事で構成する委員会で審議し、理事会の審議により以下のように決定した。（公益 1）

齋藤淳一（さいとう じゅんいち）東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭

8. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。（公益 1）

9. 委員会の活動

・広報委員会

- 1) 平成 28 年 8 月に前広報理事から学会ホームページ更新作業等の引き継ぎを行った。
- 2) 今後の広報委員会での議論すべき事項を見直した。
- 3) 広報理事メール宛に届いた学会ホームページ掲載希望メールを整理・編集し、学会事務局へダイレクトメール配信依頼を行った。
- 4) 広報理事は、教員等公募情報、研究助成情報、研究集会情報、トピックス記事について、広報委員が月当番で学会ホームページへ情報をアップする指示・確認を行った。最終的に、学会ホームページのトップページの TOPICS&NEWS 欄を更新した。
- 5) 広報委員は、月当番にて教員等公募情報、研究助成、研究集会、トピックス記事について、学会ホームページへ情報をアップした。
- 6) 学会賞受賞情報、男女共同参画アンケート実施情報、男女共同参画懇談会 活動報告、

学会賞等応募締切情報等を学会ホームページへアップした。

7) 毎月 1 日に、前月に送付された会員ダイレクトメールを編集し、メールマガジンとして会員へ配信した。

8) 学会ホームページ上の Zool. Sci.誌の最新号表紙を更新した。

・図書委員会

出版・図書委員会では、昨年度に引き続き、Springer Series “Diversity and Commonality in Animals” および丸善出版「動物学百科事典」の出版事業が、本委員会の前々委員長以来 3 期にわたり継続している。今年度では、以下の活動を行った。

1) Springer のシリーズ出版 (Diversity and Commonality in Animals) に関するもの

現在、第 1 巻 (Species Diversity of Animals in Japan) と第 2 巻 (Brain Evolution by Design) が既刊となり、第 3 巻 (Reproductive and Developmental Strategies) については 4 つのパート構成の原稿が収集され、一部を除いて校正作業が進められている。

2) 丸善出版の動物学百科事典出版に関するもの

編集幹事の小泉修、高宗和史および浅見崇比呂によって本百科事典の全 12 章の編集委員、全 315 項目の執筆担当者による原稿の初校印刷段階に至った。

・男女共同参画連絡会

1) 女子中高生夏の学校 2016 (平成 28 年 8 月 6-8 日、国立女性教育会館) の開催にグッズ (絵葉書、マグネット) 提供で協力をした。

2) 第 14 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが平成 28 年 10 月 8 日 (土) お茶の水女子大学 共通講義棟で開催され、正会員である動物学会から男女共同参画委員が参加し、ポスター発表および資料集での活動報告を行った。

3) 大規模アンケート「第 4 回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 (平成 28 年 11 月実施)」に関して日本動物学会会員の回答を HP、メールを通じて呼びかけた。

4) 平成 28 年 11 月 17 日第 87 回日本動物学会沖縄大会にて 11:45-12:45 第 16 回男女共同参画懇談会ランチョン企画「ワークライフバランスの技-動物学者の生き方を本音で語り合おう-」を開催した。グループディスカッションは「キャリアパス」、「育児・子育て」、「共働き・単身赴任」、「介護」のテーマで活発な意見交換がなされた。グループ討論や当日行われたアンケート結果を報告書にまとめた。

5) 平成 29 年 5 月 25-26 日 Gender Summit10 (GS10,一橋講堂) に委員 1 名が参加し、報告書を作成した。

6) 平成 28 年 9 月より今日に至るまで、「キャリアパスに関する意識調査 (アンケート)」の実施に向けて、将来計画委員会と合同でキャリアパス小委員会を継続し、具体的な方法などについて意見交換を行った。

・将来計画委員会

1) キャリアパス問題への対応

前年度から引き続きメール会議を通して意見交換を行い、アンケート調査によって会員のキャリア意識に関する情報を集めることを全委員の総意として決定した。平成 29 年 1 月

11日にweb会議（別紙）をアンケート調査の実施のための課題と工程を議論し、実施に向けては従前通り男女共同参画委員会と連携して作業すること等が確認された。4月26日の理事会でアンケート調査の実施のための作業をすすめることを報告し、男女共同参画委員会と共同で組織しているキャリアパス小委員会において、石原顕紀会員を中心としてアンケートのフローチャートを作成し、設問の策定を進めた。

2) Zoological Science の高校生に対する無料開放

公益を目的とした動物学の普及・教育と、高等学校での理科探求科への貢献、次世代の動物学研究者の育成のために、希望する高校に対して Zoological Science の無料アクセスを可能にすることについてメール会議で意見交換を行い、実施の可能性を検討することを決定した。平成29年6月2日の理事会で報告後、ZooDiversity委員会、教育委員会、および Zoological Science 編集委員会に実施の了解を得て、作業工程について意見交換を行った。来年度も引き続き各委員会と連携して、実施に向けて作業を進める。

・教育委員会

1. 高等学校教員を対象にホームページに開設している「動物学 Q&A」への質問受付、回答を行う。現在、質問数が極端に少ないため、その活性化の方策を検討・実施する。
2. 各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施する。なお、現在予定されている各支部の活動は支部活動報告に記載通りである。

・国際交流委員会

- 1) 平成28年11月14日～19日に開催予定の第22回国際動物学会・第87回日本動物学会合同大会に合わせて、第3回動物学国際交流セミナーを守田昌哉会員のお世話により琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設で開催することについて、メール会議（平成28年9月8日～10日）を行って了承した。
- 2) 第22回国際動物学会・第87回日本動物学会合同大会に合わせて、第3回動物学国際交流セミナーを琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設において開催した（平成28年11月19日～20日、参加者：22名（教職員8名（海外招待者2名含む）、学生14名）
- 3) 第4回動物学国際交流セミナーについて審議した（メール審議、平成29年4月14日～24日）。第88回日本動物学会大会の松田恒平実行委員長から動物学国際交流セミナーの企画案が提出され、審議の結果、動物学国際交流セミナーとして開催することについて承認した。但し、日程を大会と連動させることが難しいとのことなので、なるべく多くの会員が参加できるように周知することを条件とした。
- 4) 第4回動物学国際交流セミナーについて審議した（メール審議）。松田恒平会員から提出された動物学国際交流セミナーの企画案について先に条件付きで承認したが、大会と別日程になり参加者が限定されることが危惧されるため、改めて大会に連動した交流セミナーの企画を検討した。その結果、守田昌哉会員のお世話の下に、下記の予定で第4回国際交流セミナーを開催することを承認した。

○ 第4回動物学国際交流セミナー（予定）

開催日：平成28年9月23日-24日

場所：浜黒崎キャンプ場（富山市）

内容：海外から著名な研究者を招聘し、若手会員を中心として 1 泊 2 日の合宿形式のセミナーを開催し、国際交流を深める。

・IT 委員会

- 1) 平成 28 年 7 月、第 22 回国際動物学会及び第 87 回日本動物学会合同大会の参加・演題登録期間中における電子登録システムのサポートを行った。
- 2) 平成 28 年 7 月～11 月、第 22 回国際動物学会及び第 87 回日本動物学会合同大会において使用した演題検索システムについて、基本設計を行い、外注業者の作成した試作システムを検証しながら構築作業を行った。さらに最終的に完成したシステムの動作確認を行った。さらに、大会期間中に運用中におけるシステムサポートを行った。
- 3) 平成 28 年 12 月～平成 29 年 4 月、第 88 回日本動物学会富山大会の参加・演題登録システムについて、昨年の合同大会で用いたシステムを元に基本設計を行い、外注業者の作成した試作システムを検証しながら構築作業を行った。さらに最終的に完成したシステムの動作確認を行った。
- 4) 平成 29 年 5 月～6 月、第 88 回日本動物学会富山大会の参加・演題登録期間中における電子登録システムのサポートを行った。
- 5) 平成 28 年 12 月～、動物学会の web サイトの全面リニューアルを目指し、現状の web サイトからの移行方法、移行するページ、新規サイトのサイトマップの基本設計、新規サイトで用いる CMS の検討、を行った。そこで出たプランを元に、業者に見積を依頼し、予算設計と業者選定を開始した。本 web サイトのリニューアルにおいては、更新実務作業を行っている広報委員会との連絡を密にする必要があることから、広報委員会及び元広報担当理事の植木龍也理事を加えた、動物学会 web サイトワーキンググループを立ちあげた。

・ZDW 委員会

ZooDiversity Web (ZDW)は動物の学名や普通名で Zoological Science (ZS)に掲載された論文を検索できるデータベースで、ZS の国際的な引用向上に役立つことを目指している。また、ZS と Zoological Letters (ZL) をリンクするプラットフォームとしても役立てたい。本委員会では ZDW の運営・データ更新に必要な作業を担当する。

恒常的にメール会議の形で議論を行った。

1) ZDW のデータ更新

現在まで発行された ZS の論文についての検索用データを更新した。今後は、データ更新の資料として、ZS に論文が受理された著者には受理の段階で動物名などをデータシートのかたちで提供してもらうこととしている。

論文に voucher specimen (証拠標本)の記載が含まれる場合は、これを明示した。

2) Early View の掲載について

ZDW において ZS に受理された論文の最終原稿を Early View として掲載することについて取扱上のルールを決めた。

・Early View は本論文掲載までのつなぎであるため、1 年単位で更新（削除）する。

・Early View への掲載が国際動物命名規約に抵触する可能性があるため、該当論文は掲載対象に含めない。

3) ZDW の表示改善と不具合解消についての対応

具体的な問題をリストし web site の管理会社 (Dynax) に対応を依頼した (資料 1)

ZDW の目的と概要を明示するため、"What's ZDW"のページを追加した。

4) 検索対象の拡大についての検討

検索対象に Open Access 誌である ZL を加え、該当論文は ZL の site へリンクすることを検討し、試験的に解析をはじめた。

ZDW において「動物学雑誌」および「日本動物学彙報 Annotations Zoologicae Japonensis」の検索・ダウンロードを可能にすること検討した。この事業には別途予算を要するため、科研費の研究成果公開促進費などへ新たな申請を学会が行う必要がある。この方針については第 6 回理事会 (平成 29 年 6 月 2 日) において承認された。

5) Virtual issue の企画・編集

ZDW では特定のトピックについての研究で ZS に発表された論文をリストし、virtual issue として掲載しているが、virtual issue の企画・編集の担当が曖昧であった。学会長、ZS および ZL 編集主幹の了解を得て、当面は本委員会が担当することとした (第 6 回理事会で承認:平成 29 年 6 月 2 日)。また、従来は ZS の掲載論文のみを対象として virtual issue は編まれていたが、ZL、動物学雑誌、日本動物学彙報の論文も含めて良いこととした。なお、ZL の論文を含めることは、編集主幹および BMC から了承されている。

これに合わせて、virtual issue についての取扱について検討を行い、issue editor 向けの手引きを作成した (資料 2)。

6) ZS の高校への無償公開について

将来計画委員会が高校への ZS 無償公開について検討しており、アクセスのプラットフォームとして、ZDW を利用する可能性について照会を受けた。実際に高校への ZS 無償公開を行う場合に、ZDW で必要と想定される対応 (日本語検索マニュアルの提供など) について検討を開始した。

10. 支部による活動

・北海道支部

今期、北海道支部は下記の第 61 回支部大会 (旭川医大) と計 8 回の支部講演会を実施した。

また第 62 回支部大会 (北海道大学札幌キャンパス) の準備を進めた。

1) 第 61 回日本動物学会北海道支部大会

(ア) 日時:平成 28 年 8 月 27 日 (土) 09:15~17:30

(イ) 場所:旭川医科大学臨床講義棟

(ウ) 実施事務局:旭川大学解剖学講座 (春見達郎会員)

(エ) プログラムの概要:大学院生による一般発表 (12 件)、教員による一般発表 (3 件)、および高校生による特別発表 (7 件) を口頭講演によって実施した。参加者は高校生を含み約 50 名。

(オ) 大会の昼休みを利用して、平成 28 年度第一回支部役員会および支部総会を実施した。主な審議事項は、次期の庶務幹事・会計幹事等の選出に加え、平成 29 年度支部大会、平

成 30 年度動物学会札幌大会に関する事項である。

(カ) 第一回支部役員会の概要は以下のとおりである。

①出席者：荒井克俊，小川宏人，荻原克益，勝義直，木村敦，黒岩麻里，小谷友也，鈴木仁，西田義憲，春見達郎，林要喜知，増田隆一，松島俊也，山下正兼（欠席者：青沼仁志，相馬雅代，都木靖彰，高畑雅一，高久元，柄内新，西野浩史，松原創，三浦徹，水波誠，山羽悦郎，和多和宏）

②報告事項：庶務報告。会計報告。次期庶務幹事と会計幹事について（以下の提案を承認した）。

1. 平成 28 年度 庶務幹事：春見達郎（東部）、会計幹事：柁原宏（札幌）

2. 平成 29 年度 庶務幹事：小川宏人（札幌）、会計幹事：小谷友也（札幌）

③平成 29 年度支部大会について：恒例により平成 29 年 8 月に札幌地区（北海道大学札幌キャンパス）で実施する。開催日については、高校教員にアンケート調査を実施して最終調整することとする。

④平成 30 年動物学会本大会について：山下正兼会員（平成 26・27 年度支部長）および小川宏人会員より、本大会に関する予算案とプログラム案の説明があり、承認された。平成 30 年 9 月 13 日（木）から 15 日（土）、札幌コンベンションセンターにて開催する予定。山下前支部長を大会長委員長、松島現支部長を総務として、主に北海道大学に所属する会員が実行委員会を組織する。

2) 北海道支部講演会

(ア) 第 566 回支部講演会

①平成 28 年 7 月 8 日 17:00~

②北海道大学理学部 5 号館

③演者：三浦 恭子（北海道大学 遺伝子病制御研究所）

④演題：長寿・がん化耐性動物 ハダカデバネズミ由来 iPS 細胞の腫瘍化耐性機構

(イ) 第 567 回支部講演会

①平成 28 年 9 月 15 日 17:00~

②北海道大学理学部 5 号館

③演者：齋藤 茂（岡崎統合バイオサイエンスセンター、生理学研究所）

④演題：脊椎動物における温度センサー分子の機能的な種間多様性とその適応的な役割

(ウ) 支部講演会

①平成 28 年 11 月 28 日 17:00~

②北海道大学理学部 5 号館

③演者：Mark Lokman (University of Otago, New Zealand)

④演題：Anticipating long-distance migration in the eel - a role for steroid hormones

(エ) 第 569 回支部講演会

①平成 29 年 1 月 23 日 16:30~

②北海道大学人文社会科学総合教育研究棟 W103

③演者：Friederike Range (University of Veterinary Medicine Vienna)

④演題：The evolution of cooperation: lesson from intraspecific canine cooperation

(オ) 第 570 回支部講演会

①平成 29 年 2 月 20 日 17:00~

②北海道大学理学部 5 号館 813 号室

③演者：設楽 久志（慶應義塾大学大学院 基礎理工学専攻）

④演題：cGMP イメージングによる線虫嗅覚神経細胞 AWC の部位特異的応答

(カ) 第 571 回支部講演会

①平成 29 年 4 月 13 日 17:00~

②北海道大学理学部 5 号館 813 号室

③演者：網田英敏（Laboratory of Sensorimotor Research, National Institute of Health, Maryland USA）

④演題：なぜ好きなものに目がいくのか？Basal ganglia guide saccadic eye movement to historically good objects

(キ) 第 572 回支部講演会

①平成 29 年 4 月 25 日 17:30~

②旭川医科大学教育研究推進センター 3 階カンファレンスルーム

③演者：石島純夫（東京工業大学生命理工学院）

④演題：微小管の滑りによる精子鞭毛の運動機構とその制御

(ク) 第 573 回支部講演会

①平成 29 年 6 月 27 日 17:30~

②北海道大学理学部 5 号館 8-813 号室

③演者：後藤寛貴（名古屋大学生命農学研究科）

④演題：クワガタムシにおける大顎の性的二型の発生制御機構

3) 平成 29 年度支部大会準備

(ア) 平成 29 年 8 月 26 日（土）に予定されている支部大会への参加を、理科教育に関わる北海道内の高等学校の先生方へ呼びかける資料を、春見達郎（28 年度庶務幹事）と共に作成し、道内の主だった高等学校に配布。活動的な高校に関する情報は黒岩麻里会員の協力を得た。

(イ) 小川宏人（29 年度庶務幹事）に依頼し支部大会の会場（北海道大学理学部）と備品（ポスターボード等）を確保し、事務的な準備を始めた。

(ウ) 昨年度の支部大会決算記録に基づき、概ねの予算を会計幹事（28 年度、29 年度と共に検討した。30 年夏は本大会（第 89 回札幌大会）を開くことを念頭に支部大会は開催しない。それに伴い長期的な見通しをもって、支部の予算を検討することとした。

(エ) 7 月上旬をめどに支部大会参加の呼びかけを始めることとした。

・東北支部

1) 日本動物学会北海道支部平成 28 年度支部大会、高校生研究発表

実施日：平成 28 年 7 月 23 日（土）・24 日（日）

会場：福島県立医科大学光が丘会館

演題数：一般口演 19 題、高校生発表 13 題

参加者数：103 名

2) 親子で楽しむ動物学 16

タイトル：特定外来生物ウチダザリガニの駆除活動

実施日：7 月 24 日（日）13:30～16:30

会場：西郷村文化センター

一般参加者数：45 名

3) フォトコンテスト

応募数：18 作品

受賞：最優秀賞 1 作品、優秀賞 3 作品

4) 平成 29 年度支部大会、高校生研究発表、親子で楽しむ動物学、フォトコンテストの実施に向けて調整を進め、作業を行った。

5) 東北支部において 18 年間行ってきた高校生研究発表会開催の経験を収集し、高校における動物学研究活動の支援等に関する今後の活動に繋げることを目的として、高校連携 WG を立ち上げた。東北 6 県の委員によるメール会議を行い、各県の連携状況について情報共有を進めた。

・関東支部

1) 支部主催公開講演会の実施

日時：平成 28 年 8 月 6 日（土）13:00～15:30

会場：東京大学 弥生講堂・一条ホール（文京区弥生 1-1-1）

内容：テーマ「21 世紀動物学の夢」

再生できない動物を再生できるようにする（阿形清和：京大）

クマゼミから温暖化を考える（沼田英治：京大）

パネルディスカッション（司会 武田洋幸：東大）

参加者数：約 108 名（記帳者）

2) 第 87 回日本動物学会/ICZ22(沖縄大会,於沖縄コンベンションセンター/OIST)の開催支援
支部大会・支部総会の実施

日時：平成 29 年 3 月 20 日（祝）

会場：筑波大学文京キャンパス（沼田 治 大会長（筑波大学））

プログラム：

公開シンポジウム「生殖細胞に秘められたパワーを解く」

ポスター発表（一般発表 66 演題、中・高校生発表 21 演題）

支部総会

懇親会

参加者数：一般 207 名、高校 84 名 合計 291 名

3) 支部委員会の開催

平成 28 年 7 月 22 日（金）18:00-19:00

会場：中央大学理工学部 2 号館 3 階セミナー室（2337 号室）

平成 28 年 8 月 30 日（火）18:00-19:00

会場：学習院大学南 7 号館 8 階セミナー室

平成 28 年 12 月 21 日（水）18:00-19:00

会場：学習院大学 南 7 号館 8 階セミナー室

平成 29 年 2 月 24 日（金）18:00-19:00

会場：早稲田大学 TWINs 会議室

平成 29 年 7 月 4 日（火）18:00-19:30

会場：東京大学理学部 2 号館 第一会議室

・中部支部

平成 28 年度日本動物学会中部支部大会を以下の通りに行った。

日時：平成 28 年 9 月 10 日(土), 11 日(日)

場所：静岡大学大学会館

内容：

9 月 10 日(土)

公開シンポジウム「ふじのくにの生き物たち」

ふじのくに地球環境史ミュージアム見学

懇親会

*同時開催：生物アート展示・即売会（アートサークル生物部）

9 月 11 日(日)

開会式・支部長挨拶

一般発表（口頭）

支部会議

高校・高専生発表（口頭）

一般および高校・高専生発表（ポスター）

表彰式・支部総会・閉会式

*同時開催：生物アート展示・即売会（アートサークル生物部）

参加者：181 名（事前登録 120 名，当日参加 61 名）

演題数：一般：口頭発表 12 件，ポスター発表 14 件、高校生・高専生：口頭発表 2 件，

ポスター発表 5 件、公開シンポジウム：6 件

表彰：高校生・高専生 7 件，学生優秀発表賞 4 件

・近畿支部

1) 平成 28 年 9 月 10 日に京都大学において 近畿支部会を行った。

日時：平成 28 年 9 月 10 日（土）11:00～12:00

場所：京都大学理学研究科 2 号館 一階 会議室（113 号室）

出席者（敬称略）：沼田英治、西田宏記、寺北明久、今井佐藤薫、保智己、豊田ふみよ、古屋秀隆、久富修、橘木修志、中川将司、後藤慎介、佐藤ゆたか、尾崎まみこ、小柳光正、佐倉緑

2) 平成 29 年度近畿支部会の実施に関して、連絡調整を行った。

3) 平成 31 年動物学会大会を近畿で行うように依頼されていた。各方面と協議の結果、以下のように概要を決定した。

準備委員：寺北が準備委員長として大阪市立大学で開催する

日程：平成 31 年 9 月 12 日（木）～14 日（土）

会場：以下の予定で準備をしている。

12 日と 14 日：大阪市立大学杉本キャンパス（大阪市住吉区、最寄り駅は JR 杉本町、地下鉄あびこ）

13 日：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区、最寄り駅は地下鉄谷町九丁目、近鉄上本町）

懇親会（13 日）：シェラトン都ホテル大阪（地下鉄谷町九丁目、近鉄上本町駅前、国際交流センターから徒歩 10 分程度（700m））

4) 以下のように、近畿支部会を平成 29 年 5 月 13 日に開催した。

また、同日に近畿支部春季発表会も開催した。

日時：平成 29 年 5 月 13 日（土）11:00～12:00

場所：神戸大学職員会館「眺望館」 会議室（和室 1「摩耶」）

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1

報告及び審議事項

1) 支部長報告・理事会報告

○平成 28 年春季支部委員会報告（案）が承認された。

○志賀理事より、第 3 回（平成 28 年 11 月）、第 4 回（平成 29 年 2 月）、第 5 回（平成 29 年 4 月）の理事会で審議された事項について報告があった。

2) 平成 28 年度会計報告、会計監査報告

古屋会計幹事から報告があった。

3) 平成 29 年度会計中間報告

古屋会計幹事から平成 29 年会計状況についての中間報告があった。

4) 近畿支部の今後の活動予定

平成 29 年秋季講演会：古屋会員が担当。

平成 29 年 11 月 18 日に琵琶湖博物館で講演会を開催する計画について説明があった。

また、この大会において高校生によるポスター発表が予定されている。この件について、担当の中川会員から報告があった。高校生発表については、扱うポスターの分野（生物学に限るかどうか）、交通費補助について、出席者の間で議論があり、今後状況をみて検討していくこととなった。また、高校生参加者全員について、優秀

賞として表彰することが確認された。

平成 30 年春季研究発表会：佐藤会員が担当。

平成 30 年 5 月に、京大の北部キャンパスで開催する予定である旨説明があった。

・中国四国支部

- 1) 平成 28 年 11 月 6 日（日）に山口大学吉田キャンパスにて実施された山口大学理学部サイエンスワールド 2016 ～科学ミステリーの世界へようこそ～を後援した。企画展示ブース 12 件、博物館展示ブース 1 件、科学アトラクション 7 研究室、参加者：来場者 1056 名、主催者側 約 110 名。
- 2) 平成 28 年 12 月 10 日（土）に愛媛大学理学部にて愛媛県例会を開催した。演題数は 7 件、参加者は 30 名。
- 3) 平成 28 年 12 月 16 日（金）に岡山大学理学部にて岡山県例会を開催した。演題数は 1 件、参加者は約 45 名。
- 4) 平成 28 年 12 月 17 日（土）に高知大学理学部にて、土佐生物学会第 109 回大会（高知県例会）を開催した。演題数：口頭発表 15 件、ポスター発表 12 件、参加者：77 名。
- 5) 平成 29 年 3 月 9 日（木）広島大学大学院理学研究科にて広島県例会を開催した。演題数は 25 件、参加者は 37 名。
- 6) 平成 29 年 5 月 13 日（土）～14 日（日）高知大学朝倉キャンパスにて、第 69 回中国四国支部大会を開催した。演題数 28 題（ポスター発表 21 題、口頭発表 7 題）であった。動物学会員の参加者は 49 名であった。このほかに、高校生ポスター発表 39 件と公開シンポジウム「土佐湾の生物の魅力～過去から現在、マクロからミクロまで～」を中国四国植物学会および日本生態学会中国四国地区会と合同で開催した。
- 7) 平成 29 年 5 月 13 日（土）に、高知大学朝倉キャンパスにて、中国四国支部役員会を開催し、支部の事業計画、予算等について審議した。
- 8) 平成 29 年 5 月 14 日（日）に高知大学朝倉キャンパスにて、中国四国支部総会を開催し、平成 29 年度若手研究者優秀発表賞 2 件の表彰、支部の事業計画および予算等についての審議を行った。

・九州支部

- 1) 第 6 回九州地区動物学談話会
日時：平成 28 年 10 月 8～9 日
場所：熊本大学合津マリーナステーション
参加者数:40 名
- 2) 中四国支部の動物生理シンポジウムと九州支部の動物学談話会を、平成 29 年は合同で行うこと（動物学会中四国・九州支部合同研修会）の協議、その支部会員への伝達と案内、および三学会合同大会の連絡を行った。
- 3) 熊本大学理学部主催公開実習「遺伝子を見てみよう」
日時：1 回目 平成 28 年 11 月 6 日（日）；2 回目 平成 28 年 12 月 4 日（日）

場所：熊本大学理学部
対象：熊本県内の高校生
参加者数：26名

4) 三学会合同福岡例会

日時：平成28年12月10日（土）13：00～16：00
場所：福岡女子大学講義棟（C棟）C204室
参加者数：30名

5) 三学会（動物・植物・生態）合同大分大会（大分大学、5月27、28日）における九州支部委員会開催、九州支部総会開催

6) 中国四国地区・九州地区合同研修会（平成29年9月2,3日、下関市火の山ユースホテル）の準備、打ち合わせ

7) 各県において開催された動物学会の例会は下記の通り

平成28年11月6日 宮崎大学（宮崎）
平成28年11月19日 佐賀大学（佐賀）
平成28年11月26日 熊本大学（熊本）
平成28年12月17日 鹿児島大学（鹿児島）
平成28年12月10日 福岡女子大学（福岡）
平成28年12月17日 長崎大学（長崎）
平成28年12月17日 大分大学（大分）

（平成28年度事業報告の附属明細書について）

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載するべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない